おかざき国語

題字
国語部長
磯村　彰久　先生

岡崎市現職研修委員会
国語部

令和６年２月８日（木）
第３号

言語活動の充実に向けて

現職研修委員会　国語部長　寺澤　益実

現学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動を充実することが求められています。

自分の考えをうまく言語化して伝えることは、対面に限らず非対面においても非常に重要です。特に、ＳＮＳやリモートワークの普及によって、テキストでのコミュニケーションが一般化した現代においては、言語化の重要性がより一層増してきています。

私たちは特段の意識なく言葉を発することができます。ただ、高い正確性を求められる場合や、複雑な事象を説明しなければならない場合は事情が異なります。なぜなら、自分が好きなように、あるいは感情のままに表現してよいシチュエーションの言語化と、説明や伝達を目的とする場合の言語化では、「語彙力」や「構成力」の側面で求められるレベルが違うからです。

気持ちや事象を言語化することで、その人には何がもたらされるでしょうか。

まずは、伝達力が上がります。正確で分かりやすい言葉で伝えることができれば、相手の理解が容易になります。正確に伝えなくてはならないことや、どうしても分かってほしい感情が、言語化能力の不足を理由に伝わらないのは、非常にもどかしく切ないものです。報告や連絡の際も、簡潔に正しく伝える力が役立ちます。

次に思考の整理がつきます。自分の考えを言語化するには、まず頭の中が整理されていなければなりません。また、整理した考えを言葉にして相手に伝えるには、論理的な構成力も必要です。考えを論理的に構成する過程で、輪郭のないもやもやとした感情や事象がはっきりとした形を成していきます。

三つ目は客観性が備わります。感情や事象を言語化するために、人は頭の中を整理します。このとき、自分はなぜそう思うのか、なぜそうであったのか、について振り返ることができます。

どんなに優れた意見やアイデアが頭の中で思い浮かんでいたとしても、それを文字や言葉としてアウトプットできないと、相手からは「何も意見やアイデアがない人」と見なされてしまいます。また、アウトプットはできていても、言語化能力が低いと、本来意図している内容と異なる意味で相手に伝わってしまい、意見やアイデアが採用されず、もどかしい思いをすることもあるでしょう。

言語活動については、国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実させる必要があります。

国語科の授業において言語感覚を豊かにすることは、言語に関する知的な認識を深めるだけでなく、言語活動を充実させ、自分なりのものの見方や考え方を形成することにつながります。相手、目的や意図、場面や状況等に応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを直感的に判断したり、文章に使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすることができる力の育成に一層努めていく授業研究の必要性が求められています。

第73次教育研究愛知県集会

十月二十一日（土）に、第七十三次教育研究愛知県集会が、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）にて開催されました。岡崎市教育研究大会のリポートや討論などをもとに、次の先生方に正会員として参加していただきました。

●文学その他
大門小　河﨑　沙綾　先生
竜海中　緒方　涼子　先生
●作文その他
矢作南小　岩本　萌　先生
翔南中　次井　祥太　先生

さらに、緒方涼子先生（竜海中）は、全国教研の正会員に選出されました。

文学その他では、「個別最適な学びと協働的な学び」の実現に向けた活発な討論が展開されました。作文その他では、文字言語・音声言語の特徴を生かして、どのような力を育てていくのかについて討論が展開されました。

来年度の岡崎市教育研究大会においても、これらの視点を踏まえた議論を深めていきたいと考えています。

形成の会　岡崎例会

一月十三日（土）に総合学習センターにて「形成の会　岡崎例会」が開催されました。

今年度の市小中学生作文コンクール最優秀賞を獲得した生活作文「なるようになるさ。」（新香山中・岡田紗英さん）を題材に、望月昌生先生（竜南中）が「心・姿・力」の観点で分析・評価して、提案しました。「心」は対象のとらえかた、「姿」は作品のしあげかた、「力」は影響のせまりかたを表し、A～C段階で評価します。A・B段階を経て、C段階が最も高い段階となります。三観点それぞれの評価の妥当性や、C段階に迫るための指導等に関する議論が活発に交わされました。

人間関係や時間経過を正しく書くことを指導するとともに、本人がいちばん書きたいことや、書き切れていないことを捉えた上で指導にあたることが大切であると教えていただきました。また、書き足すだけでなく、重なる表現をすっきり整理することも重要であると、御指導いただきました。

岡崎市小中学校書き初め展

一月二十日（土）、二十一日（日）に岡崎市美術館において「第六十七回岡崎市小中学校書き初め展」が開催されました。

市内小中学校と聾学校から選出された優秀作品が展示されました。また、鉛筆を正しく持って文字を書こうとする意識や基礎的な書写技能を高めるために取り組んだ「硬筆の部」（小学校三年生から中学校三年生）の優秀作品も展示されました。二日間で約六千四百人もの方々に来場いただきました。

来場した子供たちの姿からは、作品を真剣な眼差しで見つめ、自分の書に生かそうとする前向きな気持ちが感じられました。これからも、子供たちが硬筆や毛筆の書写技能を高めていくことができるよう、指導していきましょう。

一年間を振り返って

新任一年目の先生方が一年間を振り返りました。

「国語の授業はつまらない」、私が学生時代に感じたことだ。今年特に考えたことは、どうすれば楽しい授業ができるかである。そのために、教材研究や発問の仕方を追究した。

その結果、次第に子供と共につくる授業が増え、自分の考えを次々に出す姿、友達と考えを深め合う姿が多く見られるようになった。「先生の授業は楽しい」と言われたことが強く心に残っている。

来年度もさらに楽しく実りある授業を目指したい。

（矢作南小　立山　颯馬）

教員になって実感したのは授業の難しさだ。説明文の授業では、内容理解にとどまってしまうことが多く、悩むことがあった。しかし、多くの先生方からご指導をいただき、内容だけでなく筆者の表現の仕方や文章構成にも着目することを学んだ。その他にも多くのことを教えていただき、授業を通して、子供と共に学ぶ楽しさを見出すことができた。

まだ改善点は多くあるが、試行錯誤しながら、先生方の知恵や経験を参考にし、子供たちにとってよりよい授業にしていきたい。

（六ツ美北中　上本芽依）